

岩手県市議会議員会は11月19日、盛岡グランドホテルで令和7年度研修会を開きました。県内14市の市議会議員が一堂に会し、講話を通じて故郷の魅力を再発見したほか、議員の役割について再認識しました。

第一部は「移住して発見した岩手の魅力。三本柱で幸福感、あると思います！」と題し、いわて応援芸人の天津木村氏が講演しました。

木村氏は、自然が豊か、食べ物おいしい、人が温かいという、三本柱の「田舎の魅力」が、移住前に抱いていた感覚をはるかに上回り、三本柱の一つ一つが想像以上に太く感じられたなどと体験談に触れながら岩手の魅力についてユーモアを交えて話しました。

第二部は「人口流出が止まらない本当の理由と議会の役割」をテーマに、一般社団法人

県市議会議員会研修

県内14市の議員が一堂に会し研修

コンニャク代表理事の中村健氏が講演しました。

中村氏は、行政が予算主義になることで前例踏襲が起これりやすく、事業の優先順位づけが困難になることを指摘。その上で、議会の役割は「本当に必要なのかを探究すること」と説明し、議員が質的変化のチェックに取り組む重要性について強調しました。



講演する中村氏

気仙沼市と一関市、本市の3市議会による議員研修会は11月21日、気仙沼市役所魚市場前庁舎で行いました。

研修会は、さまざまな分野で深い関わりを持つ県際3市の市議会議員が、相互に交流しながら共に学び、地域の発展に寄与することを目的に毎年のように開いています。

今回は、「気仙沼市のふるさと納税の取り組みについて」と題し、けせんぬま創生戦略室室長補佐兼ふるさと納税係長の尾形庄衛氏が講話しました。

尾形氏は、寄付額が令和6年度まで3年連続東北1位となり、昨年1年間だけで121億円となった取り組みについて説明。返礼品の取扱事業者と返礼品の数を増やすため、自ら現場に足を運び、実績を伸ばしたことを強調しました。

また、利用者にとって申し込みの窓口は多い方がいいと

県際3市議会議員交流会

ふるさと納税東北1位気仙沼市に学ぶ

考え、インターネット上の寄付受付窓口サイト数を増やし、着実に成果を上げてきたことを示しました。

このほか、寄付金は経常経費にせず、「未来への投資」として今後10年間にわたり人口減少対策や教育、産業の3つをパッケージ化した事業展開について説明。それぞれの使途を明確化することで、寄付者と市民の双方に透明性のある取り組みとしている状況が話されました。

ふるさと納税寄付制度について、示唆に富む内容に感心させられた研修となりました。



気仙沼市からふるさと納税の取り組みを聞く

産業まつりの来場者に聞きました

市民の声

あなたは
どう思う? 『シール投票』



ふるさと納税の使い
みちを問うシール投票



選挙看板風の
顔出しパネル

気軽な意見交換の
場となった議会と
お茶っこコーナー



「う〜ん選ぶって
難しい」結構悩
んだシール投票



市議会は、本市産業まつりに出展しました。

産業まつりは、10月25、26日の2日間にわたり開催され、2日目はあいにく小雨となりましたが、多くの方が市議会のブースに来訪されました。

ブースには、選挙啓発のための写真撮影コーナーに加え、気になる話題について市民の声を届けてもらうシール投票や気軽に意見交換できるように議会とお茶っこコーナーを設けました。

ふるさと納税の活用方法を問うシール投票では、子ども支援、産業振興や雇用への要望が多く出されました。

また、高校再編をたずねる投票では高田高校の海洋コースを残してほしい40人、残さなくともよい1人という結果になりました。

皆様からのご意見は、今後それぞれの議員活動にかかしていきます。

ご協力ありがとうございました。